

望郷 40 周年記念(平成 30 年) ふるさと大滝の集い 報告 その-4

——平成 30 年大滝の春・大滝の詩、山神社・記念碑の経緯——

【別添解説資料篇】 I

大滝山神神社(大山祇神社)について

大滝山神神社の建立由来

おおたきさんじんじんじや おおやまづみじんじや やまがみさま
大滝山神神社(大山祇神社、山神様)は、明治43年頃にこの地に^{こんりゆう}建立されたようである。

『わが大滝の記録』(昭和52年1月)には次のように記されている。

「山神神社の社屋は、この時代(筆者注:明治30年代終わりの頃から大正時代の始めにかけて大滝に起こった鉱山ブームの時代のこと)に鉱山成金三ツ石三平(筆者注:光石三平)によって造営寄進されたものと伝えられる。」(7頁)

「旧8月17日は氏神様さま、山神神社の祭礼日である。祭神はオオヤマズミノミコトとコノハナノサクヤヒメノミコトである。明治43年、大滝の入口にあった大滝鉱山(銅山)主が神社造営して、山の守護神として祭って以来、大滝の氏神とされたものと伝えられる。」(18頁、傍点筆者)

(添付写真-1①~③)。



添付写真-1① 大滝山神社旧鳥居(離郷回想 20 周年記念
大滝出身者の集い) H101011
(柁木新吉さん提供)

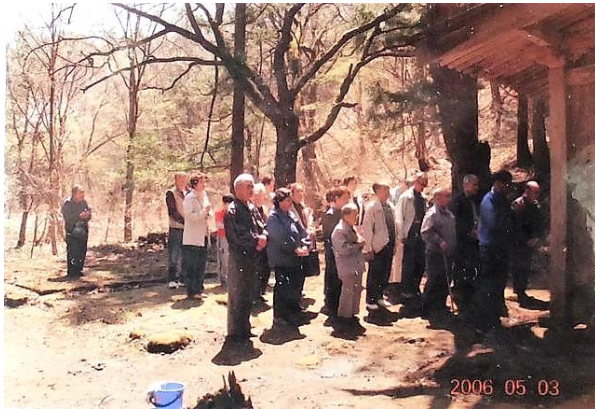


添付写真-1② 光石氏寄進と伝わる旧大滝山神神社
(離郷回想 20 周年記念 大滝出身者の集い)
H101011 (柁木新吉さん提供)



添付写真-1③ 旧大滝山神社(離郷回想 20 周年記念
大滝出身者の集い) H101011
(柁木新吉さん提供)

その後旧社殿は老朽化が進み、平成18年5月の大滝会総会において、神社を改修^{さいこう}再建^{せんぐう}し遷宮（一時的に御神体を移動すること、または戻すこと）することを決定した。この年の冬は大雪で神社の雪下ろしが大変だったようで、無人の大滝集落にあっては維持管理上も不安がある。この機会に、風雨・積雪に耐えられる雪国に強い御影石作りとして平成18年（2006年）10月8日に社殿を再建遷宮されたものである。（参考：『望郷35周年記念ふる里大滝の集い』記念誌）（添付写真－2①～⑤、添付写真－3①～③）。



添付写真－2① 旧社殿の大滝山神社 最後の集団参拝か。
H180503（高野英治さん提供）



添付写真－2② 旧大滝山神社、初代の扁額が見える。
H180723（高野英治さん提供）



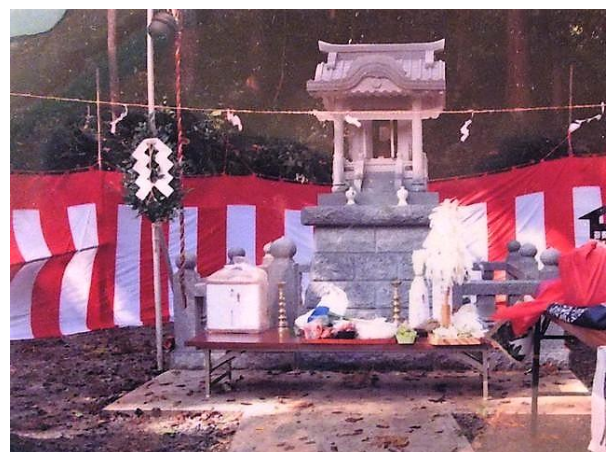
添付写真－2③ 旧大滝山神社、初代の扁額が見える。
H180723（高野英治さん提供）



添付写真－2④ 旧大滝山神社内部、老朽化進む。
H180723（高野英治さん提供）



添付写真－2⑤ 山神社の最も古い扁額。
於山神社管理事務所（大滝会事務所）
（伊藤弘治理事提供・大滝会 HP より）



添付写真－3① 大滝山神社遷宮除幕式
H181008（高野英治さん提供）



添付写真-3② 大滝山神社 遷宮除幕式。
東屋沼神社宮司 樋口重雄様
H181008 (高野英治さん提供)



添付写真-3③ (再掲) 大滝山神社遷宮除幕式記念写真 H181008 (高野英治さん提供)

現在はもちろん、旧8月17日に実施されていたかつての例大祭はおこなわれていないけれども、春と秋の大滝会行事や8月には大滝会として参拝や神社の清掃をおこない氏神様をお守りしているところである (添付写真-4①～④)。

さて、かつての大滝集落の氏神様であるところの「大滝山神社」の由来については上記のとおりであるが、現地に設けられた記念碑に刻字されているので次項にその全文を示す (添付写真-4②参照)。



添付写真－4① 大滝山神社(大山祇神社) H251013



添付写真－4② 大滝山神社由来碑 H281009



添付写真－4③ 大滝山神社鳥居(大山祇神社)、平成 25 年 8 月吉日再建。H251013



添付写真－4④ 鳥居再建経緯 H290504

大滝鉦山(葭沢橋下流百数十メートル右岸に所在)が鉦山師である光石三平(三ツ石)氏によって発見され大正前半に稼行(鉦物を産出すること)されたという。一郭千金を得た光石氏が大滝山神社をお祀りしたもので、その後大滝住民に引き継がれ氏神

様として篤く尊崇され今日に至っているわけである。ただ何処の神社(宗社)から勧請(分霊、本社(宗社)の祭神を他所で祀るためその神霊を分けること)されたものかは詳らかではないようである。今回の遷宮にあたっては、福島市平野の名神大社(※)である東屋沼神社(祭神:(大己貴命(大国主命)・少名彦命・素盞鳴命・日本武尊の四神、『福島の町と村 I』福島市教育委員会477頁より)の樋口重雄宮司様にお祀りして頂いたということである。

(※) 古代律令制下(7～10世紀)において名神祭(国家的祭祀)を実施する社格を有する神社で「延喜式神名帳」に記載のある式内社のことである(延喜式:平安時代中期に定められた律令(法律)の施行細則(式)のこと)。

なお碑文は、本稿や他レポートと一部齟齬(そご、食い違い)するところもあるけれども全文原文のまま次に紹介しておきたい。

大滝鉱山関係についても言及されており貴重な史料である。大滝鉱山関連については下記サイト（当大滝会HP）にあるので興味を持たれる向きには参照されたい。

・青葉学園探索記 「別添解説資料 大滝周辺の鉱山と青葉学園の創設」（20頁）

<http://ootaki.xsrv.jp/aobakaisetsu.pdf>

「大滝山神神社由来」石碑について

平成18年（2006年）10月8日に社殿を石造りで再建遷宮された。その際に山神神社の由来を記した石碑を併せて建立している。以下にその全文を示す。

【大滝山神神社由来】石碑 全文（題字以外は縦書き）

大滝山神神社由来

よしたとえ なみよ嵐よ 荒れもせよ
こころなごまん 大滝の名に
元大滝分校教師 小松道栄作

（時代背景）

明治十四年年十月三日 明治天皇東北 北海道ご巡幸のみぎり
栗子トンネル福島側に於いて、万世大路の開通式が盛大に
挙行され、同日天皇は、大滝駅の渡辺要七宅にご休憩
遊ばされた。氏の家の前には「鳳賀蹕の跡」の記念碑が
建てられ、現在も四代目正義氏により当時のまま大切に
保存されている。

（三ツ石三平 大滝山神社を祭る）

明治四十三年（月日不詳）万世大路を通行中の三ツ石氏は、
大滝の入口 葭沢に良質の鉱山を発見して一郭千金を得、
山の安全を祈願し大滝山神神社をお祭りしたと伝えられる。
祭神は 大山祇之尊 コノ花咲クヤ姫之尊 の二神である。

（大滝の全盛時代）

大正六年頃 大滝鉱山は鉱脈が尽き廃鉱になったが、
神社は当時の大滝宿に引き継がれた。大滝の最盛期は、
昭和十年頃 人口二六六名、四十三世帯 神社を中心として
元朝参りや 旧暦八月十七日の例大祭など大いに賑わった。
又、この頃 分校教師指導の下、青年会・女子会の活動が
盛んで機関紙「滝の声」が、ガリバン刷りで発行され、
文化的で平和な活気に満ちた時代が続いた。

（過疎化旋風興る）

昭和三十年代 わが国は、漸く敗戦から 立ち上がり高度成長
を続ける中、独りわが大滝は、都市との経済格差が拡大して

人口が流失し昭和五十四年を最後に遂に無人の里となる。
廃郷を予感した私達は、昭和五十二年春 急遽大滝会を
結成して郷土誌「わが大滝の記録」を編纂し、記念碑を建立
タイムカプセルを埋設した。そして、九十年の永きに亘り、
大滝をお守り頂いた氏神様を雪国に強い御影石作りの
お宮に造営の上、遷宮申し上げました。
願わくは故郷の再興と出身者家族代々の上に幸せを垂れ賜い

平成十八年十月八日大滝会

代表 紺野健吉

(注:文章の配置などの体裁は碑文刻字に合わせた。筆者の書き写しによる。)

【参考】 ご祭神について

大山祇之尊・オオヤマヅミノミコト(大山津見神)、コノ花咲クヤ姫之尊・コノハナノサクヤヒメ
ノミコト(木花之佐久夜毘売命)

○大山津見神

大山津見神(オオヤマツミノカミ)は、「大山に鎮まる 霊」という意味で、この神が山々を
統括することを示す。伊邪那岐神(イザナキノカミ)と伊邪那美神(イザナミノカミ)の御子。
この神は多くの神々の父である。須佐之男命(スサノオノミコト)によって八岐大蛇^{やまたのおろち}の脅威
から救われ、その妻となった櫛名田比売(クシナダヒメ)、天孫・邇邇芸命(ニニギノミコト)の
妻となった木花之佐久夜毘売(コノハナノサクヤヒメ)も、大山津見神の御子である。邇邇芸命
は、皇祖神・天照大神^{こうそしん あまてらすおおみかみ}の孫(天孫)で、多くの神々を率いて「三種の神器」^{やさかにのまがたま やたのががみ}(八咫瓊勾珠・八咫鏡
・草薙之劍^{くさなぎのつるぎ})と共に南九州体高千穂峰に降臨し、木花之佐久夜毘売との御子・火遠理命(ホ
オリノミコト/山幸彦)は天皇家の祖神^{おやがみ}となった。

すなわち、木花之佐久夜毘売が生んだ火遠理命は初代・神武天皇の祖父にあたるので、大山津
見神は神武天皇の曾祖父ということになる(神武天皇の父は、火遠理命(山幸彦)の御子・鸕鷀草
葺不合命(ウガヤウキアエズノミコト)である)。

大山津見神、木花之佐久夜毘売共に日本酒の祖神とされる。

- ・神格 山の神・海の神・酒造の神
- ・神徳 山林守護・漁業守護・鉱山業守護
- ・異称 大山祇神・大山積神等
- ・神社 ^{いわきやま}岩木山神社(青森)、^{おおやまあふり}大山阿夫利神社(神奈川)、^{みしまたいしや}三嶋大社(静岡)
^{おおやまづみ}大山祇神社(愛媛、全国の総本社:愛媛県神社本庁 HP より)

○木花之佐久夜毘売命

木花之佐久夜毘売命(コノハナノサクヤヒメミコト)は、上記のとおり大山津見神を父神に、
神大市比売(カムオオイチヒメ)を母神とし、別名を神阿多都比売(神吾多津姫、カムアタツヒ
メ)という。富士山を主宰する女神として、富士山^{ほんぐうせんげんたいしや}本宮 浅間大社(静岡県)をはじめとする各
地の浅間神社の祭神として 祀^{まつ}られ、また子育ての神としても広く信仰されている。

比売命は、出産する際に戸のない産屋にこもって火をかけたものの無事に3柱の御子（火照命（ホデリノミコト／海幸彦）・火須勢理命（ホフセリノミコト）・火遠理命（ホオリノミコト／山幸彦））を出産した。このことから、山の神（大山津見神）の秀麗な姫御子にして（美人の誉れ高い）、火を制御する霊力を秘めた女神として、日本一の活火山・富士山の神となり子育ての神となったのであろう。

- ・神格 山の神・火の神・酒造の神
- ・神徳 五穀豊穰・火難よけ・醸造の守護
- ・異称 木花開耶姫命・神吾田津姫命等
- ・神社 ^{ふじさんほんぐうせんげんたいしゃ}富士山本宮 浅間大社（静岡、全国の総本宮：HPより）、
^{いちみや}一宮 浅間大社（山梨）、^{はこね}箱根神社（神奈川）

（本項は、『古事記と日本の神々がわかる本』（2015年9月吉田邦博、学研パブリッシング）を参考に整理した。）

【関連サイト】

大滝山神神社については下記サイト（当大滝会 HP）も参照して下さい。

- ・大滝の山神様
<http://ootaki.xsrv.jp/page064.html>
- ・山神神社 鳥居新築成る！
<http://ootaki.xsrv.jp/sintorii.html>
- ・大滝山神神社 旧社殿の顔を保管管理
<http://ootaki.xsrv.jp/page130.html>

【別添解説資料篇】 II

大滝記念碑について

大滝記念碑建設の経緯

旧信夫郡中野村（現福島市飯坂町中野）の大滝集落（字葭沢、字大滝、字長老沢（通称胡桃平）の三つの小字にあった集落の総称）は、福島市の中心地から、国道13号（万世大路）を米沢方面に20kmほど入ったところにありました。昭和7年（1932年）頃 ^{おおだいら}大平集落（大滝から更に約8km米沢側）が廃郷（廃村）となってからは、福島県側の最奥の集落となっておりましたけれども、昭和53年（1978年）10月、惜しまれつつも100年余の歴史にピリオドを打っています（昭和54年5月まで個人的に1名滞在）。昭和10年（1935年）その最盛期には、43世帯266名がお住まいであったけれども、昭和51年（1976）4月には7世帯34人となり、廃郷の昭和53年10月には4世帯21人となっていた。

その廃郷時昭和54年（1979年）10月14日に、大滝の皆様は、100年の歴史を刻んだ大滝記念碑を大滝分校（教員宿舎）跡の市有地を借用する形で ^{こんりゅう}建立されました。そこには、現在の国道13号にあたる中野新道（万世大路）の建設時（明治10年7月頃）から、万世大路と共に歩んだ大滝集落の歴史が簡潔に刻字されている。（添付写真－5）



添付写真-6① 大滝記念碑除幕式 S541014
(柁木新吉さん提供)



添付写真-6② 大滝記念碑除幕式 S541014
(柁木新吉さん提供)



添付写真-6③ 大滝記念碑除幕式 S541014 (柁木新吉さん提供)



添付写真-6④ 大滝記念碑除幕式 S541014
(柁木新吉さん提供)



添付写真-6⑤ 大滝記念碑除幕式 S541014
(柁木新吉さん提供)

【参考】 除幕式次第（昭和 54 年 10 月 14 日 午前 10:00～ 記念碑前）

- (1) 開式の言葉
- (2) 神事（項目略）
（福島市平野、名神大社東屋沼神社樋口重雄宮司様）
- (3) 式辞
- (4) 碑文奉唱
- (5) 奉吟
- (6) 記念撮影
- (7) 閉式の言葉

（引き続き 11 時から「合同慰霊祭」が大滝分校（下）の校庭で執りおこなわれている。詳細省略）

「大滝記念碑」碑文

次に大滝記念碑の刻字全文を紹介いたします（添付写真－6⑥）。



添付写真－6⑥ 大滝記念碑 碑文刻字全文 H281009

大 滝 記 念 碑

大滝は明治十年万世大路の建設基地として生まれた。万世大路は同十四年秋完成、秋^{とき}あたかも東北、北海道ご巡幸中の明治天皇のご行列によって通り^ぞ初めが行われ、開通後は人馬の往来が激しく、大滝は難所栗子峠を控えた重要な宿場街として栄えた。

しかし、同三十二年国鉄奥羽線の開通により客足は途絶え二十年足らずで宿場街は終わる。以来明治、大正、昭和の三代を山懷に抱かれた平和な山村として過ごした。統計によると昭和十年の人口は二六六人、四三世帯に達し、この頃が大滝の最盛期であった。

第二次世界大戦後、日本経済が高度成長を続けていた昭和四十年頃より大滝は、都市との経済格差が拡大し更に国道の大改修で路線からも外れ次いで興^{おこ}ったエネルギー革命により、主産業であった木炭の需要を失って毎年離郷者が相次ぎ、昭和五十四年を最後に開郷百二年の歴史を閉づるに至る。

かつて明治天皇が御^か駕籠^ごを休められたゆかりの里、大自然の中に祖父子三代かけて築き上げた大滝文化も今は昔の語り草、人去って青山有り、出身者一同万感の想いをこめてここに記念の碑を遺^{のこ}さんとするものなり。

此処可しこ

分可れて棲むも

大多喜能さと

小松隆亥 (※)

撰文・筆 碧水
(紺野健吉)

昭和五十四年十月吉日

大滝出身者有志一同 建之

(※) 末尾和歌の碑文刻字は草書体(別添写真-6⑥参照)で紺野健吉大滝会前会長の揮毫による。

読みは「ここかしこ わかれてすむも おおたきのさと」。

大多喜能(の)は、大滝の当て字(多くの喜びを与えてくれたとの意を込めたもの)。

和歌は、中野村立中野中学校大滝分校(後に飯坂町立大鳥中学校に併合)の教諭 小松 隆亥^{りゅうい}先生作
(大滝四季の歌作詞の小松道栄先生ご子息)。

(注:文章の配置などの体裁は碑文刻字に合わせた。筆者の書き写しによる。注及びルビ筆者。)

参考:大滝会 HP、昭和54年(1979)10月4日、「大滝記念碑除幕式並びに物故者合同慰霊祭」資料より)

因みに、大滝記念碑設置以降、関連して次のことがおこなわれている。

- ・昭和 54 年（1979 年）10 月 14 日 大滝記念碑建立除幕式（並びに物故者合同慰霊祭）
- ・平成 元年（1989 年） 5 月 記念碑敷地舗装工事、

副碑建立（前会長紺野健吉様寄贈） 碑文刻字下記参照

10 月 14 日 記念碑建立十周年記念 ふるさと大滝を偲ぶつどい
(添付写真－7①～④)



添付写真－7① 大滝記念碑敷地舗装工事完成
平成元年 5 月(大滝会 HP より)



添付写真－7②(再掲) 大滝記念碑建立 10 周年。
敷地舗装が 5 月に完成。
H011014
(渡辺正義さん提供・大滝会 HP)



添付写真－7③ 大滝記念碑 副碑(平成元年 5 月建立
紺野健吉会長寄贈) H281009



添付写真－7④ 苔むす土台,最近の大滝記念碑
H281009

- ・平成 10 年（1998 年）10 月 11 日 離郷回想 20 周年記念 大滝出身者の集い
- 10 月 記念碑土台廻り石積工事 記念碑周囲柵取付
タイムカプセル埋設

離郷満十周年記念事業

- 一、記念碑敷地舗装工事 平成元年五月二日竣功（工費二十二万円）
- 二、大山祇神社祭礼 平成元年五月三日執行（参詣者三十二名）
- 三、ふるさと大滝を偲ぶ集い 平成元年十月十四日十五日開催（一泊二日）飯坂温泉ホテル「清山」（参会者五十三名）
（碑文の読み方）

此^こ処^こ可^かしこ

分^わ可^かれて棲^すむも

大^た多^き喜^の能^のさと

（添付写真－6③参照）

（注：文章の配置などの体裁は碑文刻字に合わせた。和歌部分刻字は草書体。筆者の書き写しによる。）

【関連サイト】

大滝記念碑については下記サイト（当大滝会 HP）も参照して下さい。

- ・大滝記念碑建立までの経過

<http://ootaki.xsrv.jp/page085.html>

（『大滝記念碑除幕式並びに物故者合同慰霊祭』昭和 54 年 10 月 14 日）

- ・大滝記念碑建立時の記録写真（昭和 54 年 10 月 14 日）

<http://ootaki.xsrv.jp/page117.html>

- ・大滝出身者の集い（離郷回想 20 周年記念）平成 10 年 10 月 11 日

<http://ootaki.xsrv.jp/page042.html>

— 終 —

[その－1へ戻る](#)

[その－2へ戻る](#)

[その－3へ戻る](#)